

複式学級における共に学び、互いに高めあえる子どもの育成

～根拠を明確にし、自らの考えを表現できる算数科の指導を通して～

長沼町立長沼舞鶴小学校 学級数3 (校長 松縄 義道)

I 実践テーマの趣旨

小規模校である本校の児童には、自分の考えを友達と比較し、共通点や相違点を意識しながら交流することが不十分であるという課題がある。そのため、共に学び合う中でよりよい考えを見つけられるよう、児童が互いの考えの根拠を比較し合い、自分の意見を分かりやすく表現する力を育成することで、複式学級における算数科の指導の充実を図ってきた。

II 実践の概要

1 複式学級における算数科の指導の工夫

(1) 全校で共通した板書の工夫

児童が学習の見通しをもち、課題解決に取り組むことができるよう、次の3点をねらいとして全校で板書の仕方を統一している。

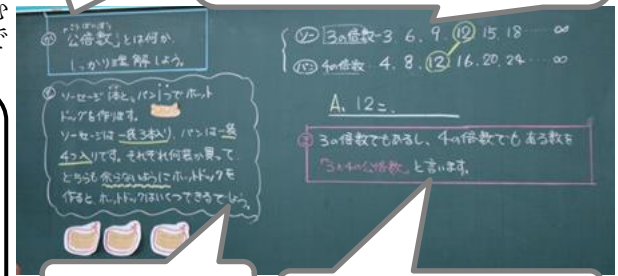
<全校で取り組む板書のねらい>

- ①課題は青線、まとめは赤線で囲むことにより学習過程の視認性の向上を図ること
- ②整合性を意識した「課題」と「まとめ」の提示により学習の見通しをもたせること
- ③構造的な板書により課題解決に向けた思考の過程を提示すること

【課題 (青線)】

【児童の考え】

「課題」と「まとめ」の間に児童の考えを示し、板書の構造化を図っている。



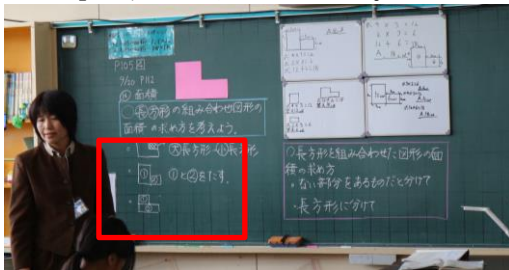
【問題】

【まとめ (赤線)】

【学習過程が分かる板書の様子】

(2) 課題解決に向けた「手がかり」の提示

児童が個々に解決の見通しをもち、間接指導時においても児童が主体的に学習を進めることができるよう、課題解決に向けた取組として次の3通りの「手がかり」を児童に提示している。



【面積の求め方の「手がかり」を提示している様子】

<課題解決に向けた「手がかり」>

- ①解決のための「手順」
 - ・作業→調査→結果の整理→解決の考察
- ②解決のための「方法」の提示
 - ・表に整理する
 - ・数直線で考える
 - ・式を工夫する
 - ・図に表す など
- ③解決のための「ヒント」の提示
 - ・ヒントカード
 - ・タブレット等の活用 など

(3) 発表や話し合いの工夫

児童が互いの考えの根拠を比較し合い、よりよい考えを導き出すことができる発表や話し合いについて、次の6点を児童に指導している。

<発表や話し合いで工夫すること>

- ・適切な声量、言葉遣い、発表態度の育成
- ・賛成・反対等、自分の立場をはっきりさせた発表
- ・根拠を明確にした発表
- ・聞き手に伝わることを意識した発表
- ・式や図、数直線、分図、具体物等を用いた発表
- ・小黒板やICT等の教育機器を活用した発表
- ・他との共通点・相違点を意識した発表や話し合い
- ・課題に対するまとめに集約していく話し合い



【数直線を用いた考えを説明している様子】

III 実践の成果と課題

- 学習過程が分かる板書を工夫したことにより、児童が色分けしてノートを書くようになったり、考え方の根拠を説明する場面を見据え、ノートに書いた表や図などを用いた自分なりの考えを発表や話し合いにつなげたりする姿が見られるようになった。
- 児童のノートを書画カメラ等で投影させると時間の短縮になるが、黒板に考え方が残らず全体での比較につながらないことから、ノートに個々の考えを書く時間やグループの考えをホワイトボードに書く場面のもち方などを工夫する必要がある。